

推薦の言葉

「心の宅急便」に寄せて 日印協会理事長、前駐フランス大使 平林 博

小さな小さな紙人形たちが語りかける。折り紙や千代紙でできた色とりどりの紙人形たちは、あるいは日本の四季を、あるいは懐かしい日本の祭や子供の遊びの数々を表すかと思えば、源氏物語や聖書の物語を語る。齢八十を超え、視力や聴力も衰え不治の病と闘う紙人形作家マサコ・ムトーおばあさんが、優れた想像力と生きることへの喜びを指先に託した作品群である。おばあさんは、東海道五十三次シリーズを創作している途中で、心静かに天国に召された。幸せな93年の生涯であった。



「心の宅急便」は、そのようなおばあさんを温かく見つめ励ましてきた娘が、皆様に送るメッセージである。小さな紙人形に込められた命を通じて、生きることの素晴らしさと人は死ぬまで作家でありうることを教えてくれる。

私は、パリでこれらの豆紙人形たちに会い、感動した。相撲をとる豆力士人形は、特に相撲好きのシラク大統領の元にお届けしたところ、丁重な礼状がおばあさんのもとに届いた。その後、紙人形たちは、パリのあちこちで披露され人々の共感を呼んだ。

「心の宅急便」は、そのような感動をできるだけ多くの人に分かち合いたいとの思いからおばあさんの娘ヒロコ・ムトーさんと友人たちが企画したものである。感動いっぱいの宅急便である。できるだけ多くの人に届けられることを願っている。